

鹿島建設グリーンボンド（第46回無担保社債）レポーティング

■発行後レポーティング（2回目）

①調達資金の充当状況（2021年3月～2022年2月）

※調達資金の充当については、1回目レポーティングで以下ご報告のとおり、発行初年度に全額充当済みであり、その内容に変更はございません

 （以下、1回目レポーティング内容）

調達資金については全額適格プロジェクトに充当されるまで、調達資金の充当状況を示すレポートをウェブサイトに公表を行う予定としており、内容は以下の通りです。

- ・適格クライテリアを満たす物件ごとの充当済金額
- ・充当済金額の合計
- ・未充当額

2020年2月28日に当社が発行した「鹿島建設株式会社第46回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（鹿島建設グリーンボンド）」によって調達された資金については、下表の通り適格プロジェクトの建設資金のリファイナンスに全額充当済みとなっており、未充当残額はありません。

（単位：百万円）

年 月	項 目	調達金額	充当金額	未充当残額
2020年2月28日	第46回無担保普通社債発行 （鹿島建設グリーンボンド）	9,947		9,947
2020年3月31日	横濱ゲートタワー （リファイナンス）		5,947	4,000
2020年3月31日	KTビル （リファイナンス）		4,000	0

※調達金額については本社債発行額から発行諸費用を除いた金額としております

また、当社は調達された資金の管理を財務本部資金部が行い、調達資金の全額が適格プロジェクト建設資金のリファイナンスに全額充当済みであることについて、財務担当役員である取締役から確認を得ております。

②環境インパクトについて（対象期間：2021年3月～2022年2月）

物件名	横濱ゲートタワー	
物件概要	当社ホームページ「グリーンプロジェクトの概要」をご参照下さい https://www.kajima.co.jp/ir/grading/greenbond/index.html#anc_yokohama	
取得認証の種類 及び認証水準	CASBEE 横浜	Aクラス（自己評価）
使用実績	電気使用量	－ kwh
	水道使用量	－ m ³
	ガス使用量	－ m ³
	CO ₂ 排出量	－ t - CO ₂
	CO ₂ 排出削減効果	－ t - CO ₂

※横濱ゲートタワーについては、2021年9月時点で建物は竣工済みですが、現状テナント工事を施工中のため、実績値は入手できておりません。定常稼働（本年春頃予定）以降の実績値にて次回ご報告します。

物件名	KT ビル	
物件概要	当社ホームページ「グリーンプロジェクトの概要」をご参照下さい https://www.kajima.co.jp/ir/grading/greenbond/index.html#anc_kt	
取得認証の種類 及び認証水準	CASBEE BELS	Sクラス（外部認証取得） ☆☆☆☆☆（外部認証取得）
使用実績	電気使用量	1,284,330 kwh
	水道使用量	5,858 m ³
	ガス使用量	0 m ³
	CO ₂ 排出量	568.958 t - CO ₂
	CO ₂ 排出削減効果	663.174 t - CO ₂

■環境目標（2018～2020年度）の進捗

当社は ISO14001 に準拠して環境マネジメントシステムを運用していく中で、2018～2020年度の環境目標を定めておりますが、今回の対象プロジェクトも含めた以下環境目標に対する実績を当社ウェブサイトにて年1回公表しております。

各年度目標に対する進捗状況につきましては、以下の当社ウェブサイトをご覧ください。

【2018年度実績】

https://www.kajima.co.jp/sustainability/data/pdf/data_report2019.pdf

当社ホームページ>サステナビリティ>環境>環境データ

>「環境データ集 2019」3ページ目3ヵ年目標と2018年度実績をご参照

【2019年度実績】

https://www.kajima.co.jp/sustainability/data/pdf/data_report2020.pdf

当社ホームページ>サステナビリティ>環境>環境データ

>「環境データ集 2020」3ページ目3ヵ年目標と2019年度実績をご参照

【2020年度実績】

https://www.kajima.co.jp/sustainability/data/pdf/data_report2021.pdf

当社ホームページ>サステナビリティ>環境>環境データ

>「環境データ集 2021」3ページ目3ヵ年目標と2020年度実績をご参照

3か年（2018～2020年度）目標 ※一部目標更新		
低炭素	施工	施工時 CO ₂ 排出量原単位 2013 年度比 8 %削減
	設計	建築物省エネ法適合義務化における SEQDC 整合性の確保 CO ₂ 排出量削減におけるトップランナーの育成
資源循環	施工	汚泥を含む最終処分率 3 %未満
	設計	グリーン調達への推進
自然共生		生物多様性優良プロジェクトへの推進
		施工による自然環境への影響抑制 (特に有害物質、汚濁水の管理)
共通基盤	研究開発	環境保全と持続可能な利用に資する研究開発を積極的に推進する 基盤研究開発の具体的な成果展開 6 件以上 / 3 年
	エンジニアリング	社会情勢や顧客要求事項の変化への対応 各種化学物質の環境事故防止の推進
	環境 エンジニアリング	グループ会社と一体になった環境経営への推進 トリプル Zero に基づいた技術の刷新、プロジェクトの創出